

高校まで過ごした故郷は長野県で、実家はものすごく山奥(北アルプス、上高地の近く)でした。そのため、山奥と雪国ではつきものである雪崩等の雪氷災害によって、道路が通行止めとなり、“陸の孤島”となるような状況が度々ありました。そのような環境から、大学は土木技術を学べる学科に入学し、卒業研究から修士課程まで雪氷現象や災害に関する研究室に所属し、積雪の研究をしていました。その後、雪氷調査、防雪対策検討をメインとしている変わった名前の建設コンサルタントがあること知り、縁あって現在の会社に入社させて頂きました。入社後、主に道路における雪氷防災に関する調査や計画、また雪崩や吹雪などの雪氷現象に関わる研究に関わり続け、今年で8年目になります。かなりニッチな分野だと思いますが(雪国北海道では雪氷災害はメジャーですが)、昨今の暴風雪などによる災害が多く発生している状況から、現在の仕事の重要性を感じています。

技術士については、大学時代に建設業界、特に建設コンサルタントでは重要な資格であることを知り、一次試験を大学院時代に通過しましたが、就職した時点では自分がいつ資格取得できるか想像出来ませんでした。しかし、会社の先輩技術士の仕事っぷり(!)を見て、技術士の技術や立場・役割の重要性を知り、目指さなくてはならない資格であることを実感しました。そのから先輩技術士の方のサポートを頂き、今年に念願の技術士となりました。試験は合格しましたが、技術士としてまだまだ未熟で学ぶことが山積み、日々精進が必要と感じています。自分の専門分野の技術向上に加え、技術士の方との交流から学び、幅広い視野を持った社会に貢献できる技術者になれるよう精進したいと思います。

齋藤 佳彦 (さいとう よしひこ)

●建設部門(道路)

勤務先株式会社雪研スノーイーターズ
技術部

→次号は、大廣智則さん(建設部門)

私のもう一つのお勧めはマラソンです(会員のひろばの続き)。マラソンはいつでも、誰でも、どこでも始められる、最も手軽な健康維持方法のひとつです。日頃の運動不足解消のためにも、自分にあったペースで始めてみてはいかがでしょうか。

走り始めた方には、マラソン大会に出場することもお勧めします。大勢の人で走るマラソン大会

は、一人で走るより数倍楽しく走れます。参加者の中には趣向を凝らした仮装ランナー達もあり、大会を大いに盛り上げてくれます。また仮装といえるかはわかりませんが、仕事の途中で参加したかのような、スーツにYシャツ姿のビジネスマンランナーが走っていることも。沿道の声援に笑顔で応えるその姿から、彼の正体はきっと優秀な営業マンに間違いありません。

走っているとたくさんの方々が応援してくれますが、なかには「気合いを入れて走れ!」と喝を入れてくれる方も。疲れてくると、これらが大きな励みとなって前に進む力になります。体を鍛えるのも技術力を上げるのも日々の努力が欠かせませんが、独りで追い込むだけでは長続きしないと考えています。辛さの中に楽しみを見つけ、周りの人たちの叱咤激励を糧として、これからも成長していきたいと思っています。

ところで、技術士が主人公のドラマ放送を希望する声について、私も賛成です。願わくは主人公の凄腕女性技術士が、ラーメン好きで趣味がマラソンであってほしいです。

本間 英敏 (ほんま ひでとし)

●建設部門(建設環境)

勤務先

和光技研株式会社



→次号は、長谷川直久さん(建設部門)